

令和6年度 徳島県立徳島中央高等学校【定時制課程夜間部】学校評価計画

【令和6年度 徳島県立徳島中央高等学校学校経営方針】

1 本校の教育目標

(1) 基本目標

生命を大切にする心を育み、心豊かな人間を育成する。学ぶ意欲と熱意に応じて、多様な学習形態と学習機会を提供し、一人一人の生徒が主体的に学ぶことができる定時制・通信制教育を展開する。

(2) 重点目標（中期目標）

- ① 基本的生活習慣を確立し、生徒一人一台端末を活用して、基礎学力を定着させるとともに、キャリア教育、体験的活動と教育的支援の拡充を図ることにより、社会的・職業的自立ができる生徒を育成する。
- ② 人権教育、道德教育、安全教育を推進し、人権尊重の精神を尊び、自主的・自立的に行動できる人間を育成する。
- ③ 目標に向かって地道に努力する生徒を育成し、一人一人の生徒の良さを積極的に見つけ、伸ばしていく学校づくりに努める。
- ④ 学校運営のビジョンを教職員と保護者、地域や産業界の方々と共有し、互いにパートナーとして、連携・協働のもとに「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた取組を充実させていく。

2 本年度の重点目標

(1) 生徒の学びの充実

- ① 徳島県GIGAスクール構想の推進（教育DXを加速）
- ② 人権教育の充実（他者の思いや考えを的確に理解できる想像力を育成）
- ③ 特別支援教育の充実（特別な支援を必要とする生徒への対応）
- ④ 主権者、消費者、防災教育の充実（成人年齢引下げに対応した安全で安心な教育）

(2) 教職員の資質向上

- ① コンプライアンスの推進（わいせつ、ハラスメント行為の根絶徹底と高い倫理観、強い使命感の醸成）
- ② 次世代を見据えた人材育成（校内研修の充実とチーム学校として年代を超えた学び合い）
- ③ 働き方改革の推進（業務の効率化と簡素化を推進）

(3) 学校の特色化、魅力化（目指す学校像）

- ① スクールポリシーの共有（生徒一人一人が主体的な学びに取り組むことを支援）
- ② 地域に開かれた学校（定期的な情報発信）
- ③ 生徒、保護者が学びたい、学ばせたいと思う学校（様々な体験活動を通じて豊かな人間性や社会性を育む）
- ④ 地域から信頼され、愛される学校（保護者、地域住民や学校運営協議等の意見を的確に反映させる）

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評 価	総合評価	学校関係者の意見	
(1)	評価指標(数値目標)	活 動 計 画	実施状況及び評価指標による達成度	(評定) B	① 考査前は放課後に自習室を開設して、生徒の質問対応にあたっているが、本来来てほしい生徒の参加率が低い。特定の学年の意欲に偏りも見られるため、引き続き生徒のニーズにあった教育が展開できるよう、授業の工夫をシェアできる機会を確保していきたい。
①	<p>①-1 基礎学力確認テスト得点30点未満の生徒割合を5%(1～2名)未満にする。(学力向上)</p> <p>①-2 意欲的に授業に参加できた生徒の割合を90%(26名)以上にする。(学力向上)</p> <p>①-3 生徒の授業満足度を90%(26名)以上にする。(学力向上)</p> <p>①-4 生涯学習および望ましい勤労観、職業観を育むことができるような取組を月1回以上実施する。(学力向上)</p>	<p>①-1 学校設定教科「マルチ基礎」や課外学習時間「ハッピータイム」を活用することで、基礎・基本的知識・技能の定着を図る。</p> <p>①-2 生徒の意欲、関心を高めるために授業改善を推進し、授業力向上週間を年2回以上実施する。</p> <p>①-3 授業のユニバーサルデザイン化を推進し、わかる授業かつ生徒の満足度の高い授業を実施する。</p> <p>①-4 学校設定科目「職業基礎A」をはじめ、学校行事や総合的な探究の時間、HR活動の時間などで、生涯学習や健康の重要性、望ましい勤労観、職業観を育ませる。</p>	<p>①-1 基礎学力の定着をみるテストでは、2学期末の時点で得点30点未満の生徒が4名(25%)であり、目標を達成することができなかった。</p> <p>①-2 授業力向上週間を年2回実施したが、意欲的に参加できた生徒の割合は22名(76%)にとどまった。</p> <p>①-3 ICTを適宜導入し、わかる授業を工夫したことで、生徒の授業満足度も26名(90%)を達成した。</p> <p>①-4 可能な限り、生徒に対し望ましい勤労観や職業観を持つ機会を月1回以上提供することができた。</p>	<p>① 学習に対して意欲的な生徒が増えてきているが、流れに乗らないマイペース派も一定数いる。多様な生徒のニーズを考慮して興味関心を高めるより一層の工夫が必要。</p>	
②	<p>②-1 「人権委員会」の活動を年7回以上実施し、生徒一人一人が、いじめ等の身近にある人権問題や人権課題について自分のこととして捉え、解決しようとする姿勢を身につけられるようにする。(人権教育課) A:年7回以上実施 B:年6～4回実施 C:年4回未満の実施</p> <p>②-2 ホームルーム活動や総合学習の時間を利用し、レジリエンスを育む教育を実践する。(人権教育課) A:年5回以上実施 B:年3～4回実施 C:年3回未満の実施</p>	<p>②-1 生徒同士が互いの個性を認め合い、自他の人権を尊重できる態度を身に付けさせるため、人権ホームルームや人権委員会の活動を充実させる。</p> <p>②-2 レジリエンスを生徒に育み、一人一人りを共感的に受け止め、前向きに学校生活を送れるように支援する。</p>	<p>②-1 人権委員による「校内人権の日」の人権啓発放送を年5回行い、それ以外にも人権委員による活動を各学期に1回行うことができた。中央祭では昨年、一昨年に引き続き人権展を開催し、2学期末には人権ミニポスターの作成・掲示を行った。また、人権教育講演会も実施した。</p> <p>②-2 レジリエンスに関する人権ホームルームを1年次と2年次で各3回実施することができた。</p>	<p>②中央祭での「人権展」を恒例行事にすることができつつある。また、新たな試みとして人権ミニポスターの作成と掲示も行い、次年度以降の活動への広がりを作ることができた。レジリエンスに関する人権ホームルームは、生徒の積極的な課外活動への参加などの形で結果が表れた。</p>	② コロナ禍以前ぶりに人権教育講演会を実施したように、次年度以降は校外とのつながりの中で人権について学ぶ機会をより設けたい。また、レジリエンスを育む教育に関しては、生徒の実感を数字として表すためのアンケートなどの実施を検討したい。

③	③-1 校内研修会に全員参加する。 (特別支援教育課) A：年2回以上参加 B：年1回参加 C：参加できなかった	③-1 生徒の実態に応じた教育相談や特別支援教育に関する知識や技術向上のための校内外の研修会への積極的な参加を促す。	③-1 生徒の実態に応じた教育相談や特別支援教育に関する知識や技術向上のための校内外の研修会への積極的な参加を促すことができた。	③ 年度当初の生徒情報交換の際に、教育相談や特別支援に関するスキルアップを図ると共に、一人一人の進路希望を把握。職員全員でサポートする体制を実現できた。その結果、今年度は生徒の方から会社見学をしたいという要望が出て、意欲的に取り組めた。	③ 教育相談や特別支援のスキルを活用して多様な生徒の理解に努め、生徒の就業意欲を大切にしながら、生徒の希望や適性に配慮する就職活動ができるよう、早めの会社挨拶や生徒引率・見学を実施し、就職100%を達成したい。
	③-2 就業体験や会社見学をした生徒の割合を対象生徒全体（1年生を除く）の30%（6人）以上にする。（進路指導課）	③-2 他の機関とも連携し、生徒の希望する職種への就業体験や社会参加の機会を推奨する。	③-2 ハローワークや中小企業家同友会などとも連携を図り、生徒の会社見学参加者を8人(36%)にすることができた。		
④	③-3 支援相談員と早期から密に連携を図り、就職希望者の卒業生の就職率を100%（2人）にする。（進路指導課）	③-3 支援相談員やハローワーク等と連携を密にし、生徒に適したアルバイト先を開拓する。	③-3 就職希望者の卒業生の就職率は50%（1人）であるが、残りの1名も今年度はアルバイトを始めた。普通自動車免許の取得に意欲的になっている。		④ 次年度以降も同活動を継続しながら、地域の方々へは新たな取組を提案できるようにしたい。 生徒各自が生活の中で実践できるようなエシカル消費活動を身に付けさせたい。
	④-1 エシカルクラブを中心としたエシカル消費の周知及びエシカル教育の推進をする。（エシカル教育）	④-1 地域社会での校外学習及び地域住民を巻き込んだ取組を実施することで、本校のエシカル消費教育の取り組みを知ってもらう。	④-1 エシカルクラブの活動の一つとして、廃食用油の回収活動を実施しており、本年度は地域の方々の協力により20kg以上の廃食用油を回収することができた。	④ 地域の方の協力を得ながら今年度も多様なエシカル活動を実施できた。食育や地域との交流の面からも、生徒と職員にとって有意義な活動となった。	
	④-2 エシカル消費についての学習活動では、全体で年間5回以上の体験活動を実施する。（エシカル教育）	④-2 エシカルバスツアー、エシカルクッキング等の体験活動を取り入れ、生徒一人一人のエシカル消費の理解を深める。	④-2 エシカルクッキング及びエコバッグの製作等、年間5回以上の体験活動を実施した。		

重点 課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題 と 今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評 価	総合評価	学校関係者の意見	
(2) ①	評価指標(数値目標)	活 動 計 画	実施状況及び評価指標による達成度	B ----- ①高い倫理観を維持し、1年を通して生徒を第一に考えた学校運営を行えた。また災害を想定して生徒・職員の命を守る訓練や	① 引き続きハラスメント行為の根絶徹底と高い倫理観の醸成に務めると共に、チーム学校としての防災力を高め、緊急時に対応できる組織作りに務める。 また防災等の緊急時に対応すべく定期的に研修する。
	①-1 管理職による教職員面接を年2回以上実施し、ハラスメント行為の根絶徹底と高い倫理観の醸成に務める。（管理職） ①-2 事故等の緊急事態発生時の対応を職員間で共通理解しておく。（防災環境教育課）	①-1 教職員との積極的な対話を通して教職員一人一人の理解を深めるとともに、適切な指導・助言に努める。 ①-2 緊急事態発生時の対応マニュアルを作成し、研修を開いて各自の役割や避難所運営の手順を確認しておく。	①-1 年2回の管理職面接や連絡会を通して傾聴を心がけ、心身の健康とハラスメントの根絶徹底に努めた。 ①-2 昨年度CSの委員の方からの指摘もあり、校長の指示のもと職員がそれぞれの役割について防災意識を高めた。		

②	②-1 メンター機能が働く協働的な体制を構築し、世代を見据えた人材育成を行う。(管理職)	②-1 週1回定例の職員会議で分掌間、教科間の問題を共有することで、チーム学校としての機能を高める。	②-1 定例職員会議等で生徒状況を共有し、指導の方向を確認しながらベテラン若手共にチームとして日々の業務にあたった。	確認も実施できた。	② 若手職員の力を生かし、様々な年齢の職員が得意分野を補え合い、多様な生徒に対応できる組織作りに努める。 また引き続き校内安全管理体制の充実を図ると共に教員の健康状態に配慮し、1年を通して心身共に健全に働ける校務分担を行う。
	②-2 職員・生徒に対して、「校内心肺蘇生法講習会」等の研修会を年1回以上実施する。(保健厚生課)	②-2 職員・生徒に対して、「校内心肺蘇生法講習会」等の研修会を年1回以上実施し、安全管理体制の充実を図る。	②-2 職員・生徒に対して、「校内心肺蘇生法講習会」の研修会を実施し、安全管理体制の充実を図ることができた。	②若い人の声に耳を傾け、力を発揮しやすい職場環境作りを心がけ、チーム学校として総合力向上に努めた。	
③	③ ワークライフバランスのとれた働き方を推進し、教員が心身共に元気に働ける風通しの良い職場環境を作る。(管理職)	③ 校務負担のバランスに配慮し、年休の取りやすい雰囲気作りと、定時退勤を心がける。	③ 定時退勤を徹底し、風通しのよい職場環境作りを心がけた。先生方それぞれに力を発揮していただいた。	③教員の心身のバランスに配慮した職場環境作りを行った。	

重点課題	自 己 評 価			学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
	評価指標と活動計画	評価	総合評価	学校関係者の意見	
(3)	評価指標(数値目標)	活動計画	実施状況及び評価指標による達成度	(評定) B	
①	①-1 アルバイト等を行う生徒を現状の62%(18人)から全体の70%(20人)以上にする。(進路指導課)	①-1 就職を希望している者で、必要な者には就職支援員との面談時間をもつ。	①-1 就職支援員からサポートを頂き、21人(81%)が何らかの仕事に従事している。	① 自分の進路について具体的に行動に移せた生徒が増えた点は改善が見られた。 一方で継続的・計画的な勉強が必要となる資格試験への挑戦者が少なく、後押しの工夫が課題。	① アルバイトを含め、社会と関わりを持つ生徒が増えてきたことは良かった。 次年度は、もっと資格試験の時期を早めに広報することで、取得する生徒の割合が増えるようにしたい。
	①-2 出張授業や看護体験・インターンシップ等を推進し、校内研修の機会を1回以上提供する。(進路指導課)	①-2 進学希望者は1回以上体験行事やオープンキャンパス等に参加する。	①-2 進学希望者は、オープンキャンパスなど希望する進路先へ足を運び、卒業予定者における進学率は100%の見込み。		
	①-3 各種検定、資格試験に挑戦した生徒の割合を全体の20%(5人)以上にする。(学力向上)	①-3 生徒の学力・学習状況を個人面談や授業評価アンケートにより把握し、適性に応じた各種検定、資格試験の受験を奨励する。	①-3 原動機付き自転車や普通自動車免許の取得者が3名(12%)にとどまった。		② 本校夜間部だけでなく、広く定時制への進学を考えている方々へ一歩前進できるようなお手伝いを今後も継続したい。
②	②-1 積極的に広報し、中央学校開放の日や中学生体験入学など本校夜間部での学びを希望する人々への学校紹介の機会を年10回以	②-1 学校開放、中学生体験入学、PTA総会、文化祭等で保護者・地域社会との交流を深める。	②-1 年間16回の中学生体験入学を設けており、今年度は多くの中学生のみならず一般の方々へも学校を紹介したり説明する機会を得る	② 体験入学はミスマッチを事前に防ぐ意味でもとても重要な取り組みであ	また欠席や遅刻に関しては、進学・就職にも影響するため、毎日学校に登校するというのが当た

<p>③</p> <p>④</p>	<p>上設ける。(教務課)</p> <p>②-2 欠席連絡のない生徒の家庭に連絡を取り、授業に出席する生徒が80%(27名)以上になることをめざす。(生徒指導課)</p> <p>②-3 毎月5回以上ホームページを更新し、情報発信を行う。(HP担当)</p> <p>③-1 年間3回以上の体験活動・交流型の学校行事を実施する。(特別活動課)</p> <p>③-2 校内外で生徒自らが自分の意見を述べたり、生徒を対象とした様々な行事で、生徒自らが主体的に関わり、運営する機会を増やす。(特別活動課)</p> <p>③-3 部活動の加入率を50%以上にする(特別活動課)</p> <p>④-1 生徒会役員を中心として毎月あいさつ運動を行う。(特別活動課)</p> <p>④-2 校内美化とゴミ分別に取り組む。また、地震等の震災により落下物がない環境作りに全校生徒・教職員が取り組む。(防災環境教育課)</p> <p>A:全員が協力できた B:80%以上協力できた C:60%以下しか協力できなかった。</p>	<p>②-2 保護者と連携し、毎日登校することの大切さを説明し、欠席をしないように根気よく協力を求める。</p> <p>②-3 ホームページ等を活用し積極的に情報発信を行う。</p> <p>③-1 音楽鑑賞会や眉山登山、野球観戦・県立しらさぎ中学校との交流会等を実施する。</p> <p>③-2 生徒全員が、生活体験発表会クラス予選で発表し、在籍中に一度は県大会の予選を兼ねた校内選考会で発表する。また、生徒会活動に関わる人数を増やし、多くの生徒に役割があたるようにする。</p> <p>③-3 積極的に加入を呼びかけたり、部活動の内容を見直して、生徒の活動の場を増やす。</p> <p>④-1 毎月の学校安全の日に合わせて、生徒会役員を中心として行う。</p> <p>④-2 「とくしまGXスクール」の認定取得を行い、行動方針に沿って、学校行事の前後で「ゴミゼロキャンペーン」で校内美化とゴミ分別の徹底に努める。</p>	<p>ことができた。</p> <p>②-2 12月末時点で90%以上が出席することができている。遅刻が多い生徒には、日常の連絡の外、学期ごとの個人面談や、三者面談等で連携し改善できるように努めた。</p> <p>②-3 学校行事や授業での取り組みの様子をホームページを活用し、情報発信を毎月行った。</p> <p>③-1 しらさぎ中と合同の音楽鑑賞会、本課程単独での眉山登山や野球観戦、三宮周辺の自主研修等の行事を実施することができた。</p> <p>③-2 生活体験発表作文のクラス発表会、校内発表会を開催し、全ての生徒が自分の体験を発表することができた。また、校内研修会では、生徒会が主体となった運営を行ったり、講師先生へのお礼を述べたりすることができた。</p> <p>③-3 12月末時点での加入率は52%であった。</p> <p>④-1 生徒安全の日には、生徒会を中心に校門であいさつ運動を行った。</p> <p>④-2 ネットワークや委員会活動を通して地域の清掃活動や校内の美化に取り組んだ。また日頃からゴミの分別、節電、節水を呼びかけた。防災クラブを中心に防災について学び、飛散防止フィルムを貼る等の体験活動を通じて日常生活に生かそうとする姿勢を醸成できた。</p>	<p>る。</p> <p>昨年度から欠席者の割合が減少傾向だったが、本年度はさらに減り、90%以上が出席できていることにも現れている。</p> <p>HPを見やすくするなど広報の改善が必要。</p> <p>③ 教育活動を通して自己決定の場、自己存在感を醸成する場を設定し、一定の効果はあったと感じる。次年度以降は、さらに活動の場を増やしていきたい。</p> <p>また今年度の部活動の加入率は50%を超え、活動も昨年度に比べて活発になった。</p> <p>④ 「あいさつ運動」や「とくしまGXスクール」に認定されたことを通して生徒自身の意識改革や積極性が培われたと感じた。</p>	<p>り前になるように、入学時から粘り強く指導を行っていききたい。</p> <p>HP更新については毎月更新することはできたが、目標に挙げた5回に届かない月があった。授業や部活動の様子を発信していきたい。</p> <p>③ しらさぎ中からの進学者もいるので、スムーズな移行のためにも、さらなる相互理解が図れるようにしたい。</p> <p>また生徒会を中心とした生徒主体による行事の運営等、生徒の立場から自発的・自治的な活動になるように支援したい。</p> <p>部活動は教員の数が少なく、設置できる部が限られるので、生徒のニーズに対応することが難しく、年度により入部率は大きく変わってしまうことが課題である。</p> <p>④ 次年度も「あいさつ運動」を続けると共に、ネットワークでは清掃活動だけではなく、日頃からよく使用する場所で危険な場所がないか確認する意識づけを行いたい。特に、落下物の危険になるような物を高い場所に置かない等の意識づけを行い、日頃から防災意識をもって行動に移せるようにつなげていきたい。</p>
-------------------	---	---	--	--	---

「評定」の基準

A：十分達成できた

B：概ね達成できた

C：達成できなかった